

## ◆2019年 中学入試算数 講評【筑駒】

筑駒の算数は、理系の東大生ですら おそらく8割以上の人が1時間はかかる難問だと思います。それをたったの40分という試験時間で解かなければならない、まさにエリートオブエリートを選抜する試験です。

今年は例年より更に全体的に難しく、制限時間を考慮すると、世界中でもこんなに難しい選抜試験は、他にないのではないかと思います。40分で満点をとる人が現れるとは思えません。

斬新で興味深い問題を生み出したり、最後に受験生の知的躍動を生み出すような仕掛けを用意したり、インテリお洒落な問題作成者の気品を表すかのような構成でした。

以下、各問題の講評です。

### 大問1 規則性

小さい数で実験させて大きい数に抽象化させる、筑駒が例年必ず出すタイプの問題です。抽象化させることと同時に、緻密に合わせる必要があります。

### 大問2 場合の数

ダブリを含めて、一筆書きをするという、斬新で興味深い設定です。

今回の場合、出発点がA点と決まっているので、

「奇数本に分岐する点が生まれないように、線を取り除く取り除き方」

がこの問題の本質ですが、そこに気づけた受験生は、筑駒を受験するような大変優秀な受験生の中でも、ごくわずかだったと思います。

### 大問3 速さ

3つの点が動く旅人算の中でも、最高難度の問題。

(3)で赤と白に注目し、場合わけを行った後、それぞれの周期性を見つけた上で、丁寧に答えを探す作業は、全体で40分という制限時間も考慮すると、中学入試最高難度の問題です。

### 大問4 平面図形 円 軌跡 通過領域

(3)で、BCの長さが与えられていることに、「？」の受験生が多かったかと思います。そこに気づくと、躍動が生まれることでしょう。

最高に厳しい入試の中でも、最後の問題で、受験生の知的躍動を誘発するような、非常におしゃれな問題です。